新潟県糸魚川市におけるジオパーク活動

Geopark activity in Itoigawa City, Niigata Prefecture

竹之内 耕 [1]
Ko Takenouchi[1]

[1] 糸魚川・フォッサマグナ博
[1] Fossa Magna Museum, Itoigawa City

新潟県糸魚川市は，日本海に面し背後に山岳地域をひかえた人口 5 万人程度の小都市である．大部分を占める山岳地域は，国立公園（2）・県立自然公園（3）・自然環境保全地域（3）を含み，また，国指定文化財を記念物に限ると，名勝・天然記念物（7）・史跡（3）がある [(　) 内は件数]．地質学的には，糸魚川－静岡構造線（以下，糸静線）が市域を横断しているため，形成年代が古生代～新生代におよぶ地質体が露出している．糸魚川市のみの地質資料から，約 5 億年間の日本列島の事件を読み取ることができる稀な地域であり，また，多様な地質を反映して，地震・地すべり・土石流などの地学災害も多い．さらに，フォッサマグナと地すべり・棚田，断層と古道（塩の道），蛇紋岩メランジュ・大隆起と縄文時代のひすい文化，ひすい探索の観光客，登山など地学現象と市民生活が深くかかわり合っている．

1987（昭和 62）年に「フォッサマグナと地域開発構想」がつくられた．これは糸魚川市の地学資源を地域振興に結びつけようとするものであり，その一つを具体化したものが，1989（平成元）年の「糸魚川市立博物館構想」であった.「糸魚川市立博物館構想」の中では，博物館を中央博物館とし，露頭や地形を野外博物館と称して，それらを結びつけていくことの重要性が述べられている．1991（平成 3）年，博物館設立準備と野外博物館（「ジオパーク」と呼称）の整備が始まった．1994（平成 6）年にフォッサマグナミュージアムが開館したが，2005（平成 17）年の近隣二町（青海町・能生町）との合併により，フォッサマグナミュージアム（学芸員常駐）と青海自然史博物館（学芸員不在）の二館となった．

ジオパークには，露頭の前や景観の眺望点に解説板を設けており，一部は解説リーフレットを発行している．以下に既存のジオパークを掲げる．

1) フォッサマグナパーク（糸静線断層露頭・枕状溶岩），2) 小滝ひすい峡（ひすい転石群・明星山石灰岩大岩壁），3) 高浪の池（地すべり湖・ジュラ紀石炭鉱山跡），4) 月不見の池（地すべり巨大岩塊と池），5) 焼山火山（溶岩ドームの眺望・火砕流堆積物），6) 蓮華温泉（氷河地形最初の確認地・噴気帯），7) 三峡峠（海谷渓谷・海底火山の大断面）である．また，新たに合併して拡大した市域にも多くの地学資源がある．これらに対しても，ジオパークとして整備が進められていくことになる．

博物館が中心となって，地球科学に関係した普及活動を行っている．糸魚川市とその近隣のジオパークや地学的景勝地をめぐる地学ハイキング・市民向け地学講演会・小学生向け体験学習などである．また，博物館独自のひすいやフォッサマグナに関する普及書・研究報告書などの出版物もある．現在，糸魚川市内には，博物館の「友の会」が３つ（地学系２・動物植物系１）あり，博物館の活動をバックアップしたり，独自の普及活動や調査活動が行われている．

糸魚川市の地学資源は，日本列島成立過程を示すばかりでなく，先述のように人々の生活と深く関係している．点の集合体である現在のジオパークを，あるテーマに沿って配列し，地質観光旅行者にとって都合のよいものにしていきたい．たとえば，次のようなものがあげられる．

1) 巨大断層がつむいだ生活・災害文化

フォッサマグナパーク（断層露頭）→塩の道（国指定史跡）→姫川渓谷（土石流堆積物・湖沼堆積物・砂防施設）→蓮華温泉（北アルプスの大隆起）

2) ひすい文化を育んだ蛇紋岩メランジュと大隆起

長者ケ原遺跡（ひすいの玉生産遺跡）→糸魚川海岸（ひすい拾い）→ひすい峡→青海川渓谷（高圧変成岩）→蛇紋岩地すべり

3) フォッサマグナ最北端の焼山火山と温泉

焼山（溶岩ドーム）→焼山（溶岩流）→焼山（土石流砂防堰堤群）→焼山（温泉群）→焼山（火砕流堆積物と新田開発）

4) カルスト地形と石灰石鉱業

青海石灰岩化石産地→マイコミ平（ドリーネ群・植物相）→福来口（鍾乳洞）→石灰石採掘切羽